中国の小学校国語教師を対象とした書字につまずきのある児童への支援に関する調査研究

于　福泉

Ⅰ．問題と目的

日本文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」(2002)によると,知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を示すと担任教師が回答した児童生徒の割合は6.3%である。「この数値から学習面や行動面に問題のある児童生徒は,40人学級で2-3人,30人学級で1-2人在籍している可能性がある」と述べている（石部・上田・高橋・柳本,2007)。

日本での「国語」のことを中国では「語文」と言い,「語文」という言葉は新中国になってから使われている。

語文課程標準（2001)によると,「小学校6年間で2,500の漢字を書けるようにする」といった数値目標が掲げられている。

大上(2007)は,表音文字でない漢字を使う中国語圏の子どもたちの漢字学習は非常に大変であると述べている。劉・劉・徐(2004)は,漢字は特殊な文字の一つであり,その偏旁部首の複雑さと,覚えなくてはならない量は,ピンイン以上であると示した。

また,中国では,現在義務教育を受けている児童生徒は1.7億人いる。そのうちの8.76%が学習困難児とすれば,1,470万人の児童が学習に困難を抱えると推測される(葉,1995)。

漢字の学習量が多く,書字につまずきのある小学生が多く存在している中国において,教育現場でそうした児童に対する支援はどのように行われているかを調査し分析することで,書字につまずきのある児童にとって有効な漢字学習の方法が見出せると考えた。

そのために,中国の小学生を担当している国語教師を調査対象とし,書字につまずきのある小学生に対する支援の状況を明らかにすることを目的とした。

Ⅱ．方法

1　予備調査

予備調査は,本調査に用いる質問紙調査内容及び表現の適切さ,質問項目などを修正することを目的とし,J教育大学院生である日本の現職教員8名にアンケート調査をした。

2　本調査

本調査は,書字につまずきのある小学生に対する支援の状況を明らかにするため,中国天津市H小学校で国語教育を担任する教師を調査対象とし,郵送により質問紙調査を実施した。その回収率は61.5%で,調査対象とした国語教師 117 名のうち72名から回答を得られた。

調査項目は,以下のとおりに設けた。①項目1～6:回答した教師の基本情報と受けもっているクラスの人数について回答を求めた。②項目7：書字につまずきのある児童の有無,人数について回答を求めた。③項目8：書字につまずきのある児童に対する支援現状について対象別の回答を求めた。具体的には,対象児の年齢,医師による診断名,書字につまずきのあると感じる小学生の書字特徴,国語の授業での支援,国語の授業以外での支援,授業以外での該当する小学生に対する支援頻度,校内での対応,外部機関との連携,支援の可否及びその理由,支援において最も必要としている情報であった。

Ⅲ．結果

1　国語教育を担当する教師について

回答した国語教師の97.2%は学級担任であり,国語課程は中国義務教育で非常に重要であることが分かった。

また, 76.4%の教師は5年以上の教職経験があり,教職年数は比較的長いことが分かった。

国語を教えた年数については,73.6%の教師は

国語を教える5年以上の経験があり,国語教育の担当としての経験年数が長いことが分かった。

特別支援学校に勤務した経験は1人のみであり,H小学校では,特別支援教育について十分な知識のある教師がほとんどいないことが分かった。ほとんどの国語教師は,書字につまずきのある小学生に対する支援ができているが,特別支援教育の観点ではなく,一般の漢字教育の観点で支援していると考えられる。

現在,受けもっているクラスを何年間担当しているかについては,71.8%の教師は今受けもっているクラスを1～2年間担当していることが分かった。ほとんどの国語教師は教師になりたてのころから,ずっと国語を担当しているが,2年間くらいで担当するクラスが変わると予想される。

2　書字につまずきのある小学生について

回答した国語教師72名の受け持つ2664人の児童のうち書字につまずきがあると感じる児童は15人であった。発生率は0.6%であり,書字につまずきがある小学生は少ないことが分かった。

書字につまずきのある小学生の約6割は3年生と4年生で,3～4年生の発生率が多いことが分かった。

対象となる小学生で障害の診断のある児童については,調査の中で具体的に診断名を挙げてもらうようにしたが,結果は全員無回答であり,診断された小学生はいないことが分かった。

対象となる小学生の基本状況を表1に示す。書字特徴は、①読みにくい字を書くこと,②書くのが遅いこと,③文字を写すことが困難であること,④聞いたことを正確に書き取ることができないこと,⑤漢字を書く際,左右が入れ替わったり,細かい部分を書き間違ったりすること,⑥独特の筆順で書くこと,⑦発音が似ている漢字を書くこと,⑧意味が似ている漢字を書くこと,⑨その他である。

3　書字につまずきのある小学生に対する支援状況について

国語授業で,「たくさん練習させ,個別指導を行う」の回答が一番多かった。国語授業以外では,「漢字を練習する時間を増やす」の回答が一番多かった。

表1　対象児の基本状況

対象児	年齢	学年	書字特徴
A	8	2	① ② ③ ④ ⑥
B	9	1	① ② ③ ④ ⑤
C	9	3	① ④ ⑤ ⑥ ⑦
D	9	3	① ③ ④ ⑥ ⑦
E	9	3	② ③ ④ ⑥ ⑦
F	10	2	① ② ③ ④ ⑥
G	10	3	① ② ③ ⑤ ⑦
H	10	4	① ② ④ ⑦ ⑧
I	10	4	② ③ ④ ⑤ ⑦
J	10	4	① ② ④ ⑦ ⑨
K	10	4	① ② ④ ⑥ ⑦
L	11	4	① ② ③ ④ ⑥
M	11	5	① ② ③ ④ ⑦
N	12	6	① ② ③ ⑦ ⑧
O	12	6	① ② ④ ⑤ ⑦

校内対応については,ほとんどの児童に対して校内対応をしていることが分かった。

外部の機関との連携をとっている児童は1人のみであり,連携はほとんどできていないことが分かった。

支援の可否については,99.3%の教師は「できている」と回答しており,多くの教師は支援ができていると考えていることが分かった。

支援する上で最も必要としている情報については,73.3%の教師は支援方法と回答した。国語教師は書字につまずきのある小学生を支援するとき,必要となる情報として,支援方法が一番知りたいことが分かった。

Ⅳ.　考察

1　教師の専門性の向上

本研究では,「練習をたくさんさせる」以外の新たな支援方法は見られなかった。約7割の教師にとっては,支援方法が最も知りたかったことが分かった。そこで,中国の普通の小学校では書字につまずきがある小学生を支援する際,小学生の

ニーズに合わせ，教育の専門性が求められ,支援方法についての研究や報告が必要と考えられる。

２　支援方法

１）文字に注目した支援

余・王・宋・张(1998),宋(2007)は小学校低学年漢字学習の教育上の困難は字形であり,高学年漢字学習の教育中の困難は字意であると述べている。そこで,文字の特徴に合わせ,支援することが大切であると述べている。本研究の調査結果からも書字につまずきがあると感じる小学生 15 人の内 13 人は字形についての困難があり， 15 人の書字特徴の 4 割であることが分かった。そこで，字形についての支援が必要と考えられる。

２）動機づけに注目した支援

大庭・菅原・中村・菊地・高橋・伊藤・木下・浜辺・細谷(1998),大庭(2008)は書字学習への導入が必要であった片眼弱視児を対象として,組立課題,描画課題,文字課題からなる一連の課題系列を用いて,積極的に他者とのコミュニケーションなど表現活動に対する動機づけを高める支援を実施したと発表した。そこで，書字につまずきがあると感じる小学生に対する支援は，クラスを中心として，小学生の身近な環境の中で支援場面の設定や個々の事例を検討していく必要があると考えられる。

３）連携に注目した支援

本研究の調査結果から，外部の機関との連携は１人のみであり，外部との連携はほとんどできていないことが分かった。そこで、書字につまずきがあると感じる小学生に対するより効果的な支援をするためには，外部との連携が重要視され，他校か他機関の経験者の意見交換などが必要と考えられる。

Ⅴ．　結論

本調査の結果から,以下のことが明らかになった。

１　国語教師がほとんど学級担任で，国語課程は中国義務教育で非常に重要である。

２　国語教師の教職年数は比較的長い。そして，ほとんどの国語教師は教師になった初めごろから，ずっと国語を担当しているが，2年間くらいで担当するクラスが変わる。

３　ほとんどの国語教師は，書字につまずきのある小学生に対する「支援ができている」「校内対応ができている」と回答したからといって，実際に支援が特別支援教育の観点ではなく，一般の漢字教育の観点で支援している。

４　書字につまずきのある小学生を支援する際，外部の機関との連携があまりできていない。

５　国語教師は書字につまずきのある小学生を支援するときに必要となる情報として，支援方法が一番知りたい。

文献

石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次(2007)よくわかる障害児教育．ミネルヴァ書房.

劉翔平･劉希庆･徐先金(2004)阅读障碍儿童视觉记忆研究 中国临床心理学杂志,12(3),246-249.

文部科学省(2002) 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査.

大庭重治(2008) 書字学習導入期における課題系列の設定と学習状況の把握-弱視児を対象とした経過観察より-. 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要,14,57-63.

大庭重治･菅原肇･中村万希･菊地克行･高橋幹則･伊藤まゆ･木下建作･浜辺清･細谷一博(1998)片眼弱視児に対する表現活動の初期指導過程.上越教育大学障害児教育実践研究センター紀要,4,25-31.

大上忠幸(2007)日本語初期指導における中国出身 JSL 児童生徒への"書くこと"の指導-中国で「語文」教育を受けた子どもたちの背景を活かす試み-. 東京学芸大学大学院連合学校教育科研究科,学校教育学研究論文集,15,67-82.

全日制義務教育語文課程標準(2001)北京师范大学出版社.

佘贤君・王莉・宋歌・張必隐(1998)小学识字教学难点与汉字心里词典的发展.上海教育科研,12, 27-30.

宋華(2007)基于语料库的中小学生错别字类型多元解析—兼论素质教育背景下的中小学汉字教育策略.鲁东大学硕士学位论文.

葉立群(1995)特殊教育学.福建教育出版,第1版,P.203.